

第1号の1様式（第7条第1項）

令和〇年〇月〇日

崖地減災対策工事助成金提案書

横浜市長

申請者 住所 △△市〇〇区□□町1-2-3

氏名 横浜 太郎

電話番号 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

地番で記入

工事箇所	〇〇区 □□一丁目 234 番地 5 (工事を行う土地の所在及び地番)	
工法提案者 (設計・計画者)	住所・電話番号 △△市〇〇区 □□二丁目 34-5 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 法人名・代表者名 株式会社 横浜 花子 設計・計画者氏名 横浜 さくら (技術的な資格も適宜記入)	
崖地の状況	高さ〇m、延長〇m、傾斜角度〇° の自然斜面 (崖高、勾配、自然崖・人工崖等の別、工作物種類)	
工法名		
対策工種類 及び 適合基準  (対策工の種類 ア〜キの いずれかに〇 準拠する 基準等の□ にチェック)	ア. 擁壁築造工事 <input type="checkbox"/> 建築基準法施行令 第142条 <input type="checkbox"/> 盛土規制法施行令 第8条第1項第2号	
	イ. 切土又は盛土工事 (第8条第1項第1号ロの場合は計算書を添付) <input type="checkbox"/> 盛土規制法施行令 第8条第1項第1号イ <input type="checkbox"/> 第8条第1項第1号ロ	
	ウ. 法面保護工事 (条例3条1項第5号、盛土規制法8条1項1号ロの場合は計算書を添付)	
	表面保護のみ	横浜市建築基準条例 <input checked="" type="checkbox"/> 第3条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第3条第1項第5号
	切土工の場合	盛土規制法施行令 <input type="checkbox"/> 第8条第1項第1号イ <input type="checkbox"/> 第8条第1項第1号ロ
	エ. 落石対策工事 オ. 待ち受け擁壁工事 カ. 地滑り防止工事・斜面崩壊防止工事 ク. 増し積み撤去工事 ケ. その他市長が認める工事	
	設計趣旨及び効果	
	技術評定等の根拠	
	キ. 擁壁補強工事 <input type="checkbox"/> 部材補強・一体化 <input type="checkbox"/> 壁体転倒・滑動防止 <input type="checkbox"/> 地盤の安定化 <input type="checkbox"/> 地下水の排除	
	設計趣旨及び効果	
構造的な 効果 影響への対応策		
添付図書 (添付するもの にチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 現況図 (配置図・平面図・断面図) <input checked="" type="checkbox"/> 改善計画図 (配置図・平面図・断面詳細図・構造図) <input type="checkbox"/> 案内図 <input checked="" type="checkbox"/> 現場写真 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (対策工構造計算書、崖の安定計算書、土質調査資料等)	

該当するものに〇又は✓

該当するものに✓

エ. 落石対策工事   オ. 待ち受け擁壁工事   カ. 地滑り防止工事・斜面崩壊防止工事 ク. 増し積み撤去工事   ケ. その他市長が認める工事	
設計趣旨及び効果	H型鋼落石防護柵を崖下に設置し、隣地工作物の崩落から建築物を保護する。構造物上部の自然斜面からの崩落土の受け止めにも効果を見込む。
技術評定等の根拠	〇〇株式会社   △△タイプの標準構造図による。

エ. 落石対策工事   オ. 待ち受け擁壁工事   カ. 地滑り防止工事・斜面崩壊防止工事 ク. 増し積み撤去工事   ケ. その他市長が認める工事	
設計趣旨及び効果	大谷石擁壁上部のコンクリートブロック造増し積み擁壁を撤去する。 擁壁撤去の部分は、当初造成後の盛土であるため除却し植生シートで養生する。
技術評定等の根拠	特になし。

キ. 擁壁補強工事 <input checked="" type="checkbox"/> 部材補強・一体化 <input type="checkbox"/> 壁体転倒・滑動防止 <input type="checkbox"/> 地盤の安定化 <input type="checkbox"/> 地下水の排除	
設計趣旨及び効果	空積間地擁壁に法枠工を施工することにより、壁体を一体化する。
構造的な効果 影響への対応策	① 部材強度 法枠工により空積みブロックを一体化できる ② 擁壁安定性 擁壁重量が増加するが、間地であり地盤にもたれているため転倒への影響はない。擁壁重量が増加するため滑動への抵抗性は向上。沈下は地盤が〇〇のため、支障ない。 ③ 外部環境 擁壁水抜きは、法枠工にも設置し構造物の排水性能に変化はない。

キ. 擁壁補強工事 <input type="checkbox"/> 部材補強・一体化 <input checked="" type="checkbox"/> 壁体転倒・滑動防止 <input type="checkbox"/> 地盤の安定化 <input type="checkbox"/> 地下水の排除	
設計趣旨及び効果	壁体にミニアンカーを設置し、転倒防止を図る。
構造的な効果 影響への対応策	部材強度 金網工により空積みブロックの脆性的な崩壊を防止する。 ① 部材強度 壁体は鉄筋コンクリート造であり部材の一体性に支障はない。 ② 擁壁安定性 ミニアンカーにより転倒に対する抵抗性が向上する。 ③ 外部環境 排水補強パイプにより水圧が軽減できる。

キ. 擁壁補強工事	
<input type="checkbox"/> 部材補強・一体化 <input type="checkbox"/> 壁体転倒・滑動防止 <input type="checkbox"/> 地盤の安定化 <input checked="" type="checkbox"/> 地下水の排除	
設計趣旨及び効果	擁壁・壁体に前面金網工を設置し、排水補強パイプにより地下水を排除する。
構造的な効果	① 部材強度 金網工により空積みブロックの脆性的な崩壊を防止する。
影響への対応策	② 擁壁安定性 金網工の重量は擁壁に比し無視でき、擁壁安定性に影響はない。 ③ 外部環境 排水補強パイプにより水圧が軽減できる。